

美国漁港新規整備事業計画箇所【第1港区・第2港区】



地域ぐるみの3年間の要望運動実る
新美国漁港整備事業計画 (R3・R12) 農水大臣決定
計画事業費約24億円 早期完成目指して

平成30年から町議会、町内産業経済団体（積丹地域マリナビジョン検討協議会）、漁業者など町ぐるみで、国への採択要望運動を続けてきた国の第3種美国地区特定漁港漁場整備事業計画が、7月9日に農林水産大臣の決定・公表がされ、令和3年度から令和12年度までの10年間で、計画総事業費23億9,500万円の北海道開発局直轄事業として、新たにスタートしました。

新たな計画では、これまで整備が遅れていた、屋根付岸壁や屋根付船揚場、荷捌所周辺の道路、駐車場、岸壁背後の用地舗装など3つの港区の整備が計画され、漁業生産基盤と就労環境の改善などの新たな整備のほか、老朽化が進んでいる新計画以外の漁港基本施設箇所の改修対策の着手を要望しています。

「茶津地区」の長年の悲願実現も！
「高波」・「船揚場」・「景観」の課題を乗り越えて

茶津地区の整備計画には、年を追って荒れる海辺で漁業を営む漁業者と、幾度となく高波の恐怖に脅えてきた旅館や住家の皆さんが、静穏な浜をつくる“ことと、宝島とゴメ島を望む美しい、自然景観の保全“との両立という難しい地域の課題解決に向けて、地区の皆さんが共に悩み、懸命に整備運動の実現に取り組んできた長い悲願の歴史への思いが込められています。

美国漁港新規整備事業計画箇所（茶津地区）【第3港区】



拡大
←

全体計画の概要（令和3年～12年度）

計画施設	計画工事種目	計画数量
外郭施設	① 西防波堤	142.0m
	② 西護岸	67.0m
水域施設	③ -2.5 m航路	4,440㎡
	④ -2.0 m泊地	1,600㎡
係留施設	⑤ -4.0 m岸壁 (改良)	64.0m
	⑥ 船揚場	43.0m
	⑦ 船揚場 (改良)	85.0m
	⑧ 船揚場 (改良)	80.0m
輸送施設	⑨ 道路	216.0m
	⑩ 道路 (改良)	80.0m
	⑪ 駐車場	1,560㎡
漁港施設用地	⑫ 用地 (改良)	11,360㎡

新たな美国漁港整備事業計画は、「漁業生産確保の場」だけでなく、美国漁港背後の住民生活環境の整備や商工観光業の振興との連携など、「漁村の活性化」に導く、「コロナとの共存の時代」の新たなまちづくりの寄与することが期待されています。

そして、多額の国の予算投下を必要とする今後の整備計画の促進には、漁業、農業、商工観光業など本町の基幹産業を支える団体とその組合員や会員の皆さんを先頭に、本町の新たな活性化への熱心な連携や協働を目指す取り組みと、地域や町ぐるみでの運動のこれまでに以上の展開が必要です。

”漁村の活性化”につなぐ漁港整備を目指して